

# 消防団たずね歩き

これまでの活動をふりかえって

## 「分団の紹介」

東灘消防団本庄青木分団は、主に北青木、青木を管轄区域としています。

南部は海に面し、工場や商業施設、住宅等が立ち並んでいるため、工場火災や高潮、津波などに対する警戒が必要な区域もあります。

## 「私が消防団に入団したきっかけ」

中学生時代に受けさせていただいた、消防職業体験を機に消防防災について興味を持ちました。

高校へ進学後、東日本大震災が発生し「消防団」の活躍がニュース等で取り上げられ、私にも何か出来ることがあるのではないかと考え、18歳で入団しました。

## 「初めての火災出動」

入団後、しばらくして店舗兼住宅の建物火災事案に出動しました。

炎に包まれる建物を目の当たりにした時、正直どうしたらいいのか分からず、とにかく先輩団員、消防職員の指示を受け活動していました。

現場で体感した、とてつもない熱風が今でも印象に残っています。

## 「その他の出動」

東灘区内にも甚大な被害をもたらした、平成30年台風21号では、管轄の青木沿岸部においても高潮等による浸水被害が多数発生し消防団に水防指令がかかるも、自宅や周辺が浸水し出動が困難な団員の姿も見受けられました。

長靴が完全に水没するくらいまで浸水した家屋に取り残された住民の方を団員数名と背負って徒歩で詰所まで向かいその後、積載車にて近くの避難所まで搬送しました。無事に避難所へ到着した時は、達成感を感じました。

消防団員であっても、自身の安全を確保してから出動することの大切さ、風水害等自然災害の危険性を再認識させられることとなった1年でした。

## 「ポンプ操作訓練等」

公園等に設置された消防用ポンプを活用した訓練等も消防団の活動であり、定期的に公園でエンジンを始動させ、各機能の点検もかねた訓練を行います。

活動中、付近で遊んでいた子供たちが積載車のもとへ駆け寄り「しょうぼうしゃ！」と喜んでいる姿をみてやりがいを感じる場面もありました。

(東灘消防団 本庄青木分団 班長 小川 美樹也)

